

# 水の あそび





なつやす しょうがくせい  
夏休み、小学生のユウちゃんがおばあちゃんの家にあそびに来ていました。

「おばあちゃん、のどかわいたー。お水みずちょうだい」

「はいよ、どうぞ」 「ゴクッ」

「あれ？このお水<sup>みず</sup>なんかいつもお家<sup>うち</sup>で飲んでるのよりおいしい！

なんでだろう」



「それはね、おばあちゃんちの近く<sup>ちか</sup>には森<sup>もり</sup>があるでしょ？

お水<sup>みず</sup>がおいしいのは森<sup>もり</sup>のおかげなんだよ。」

「えっ森<sup>もり</sup>？どういうこと？」

YAHANASHI

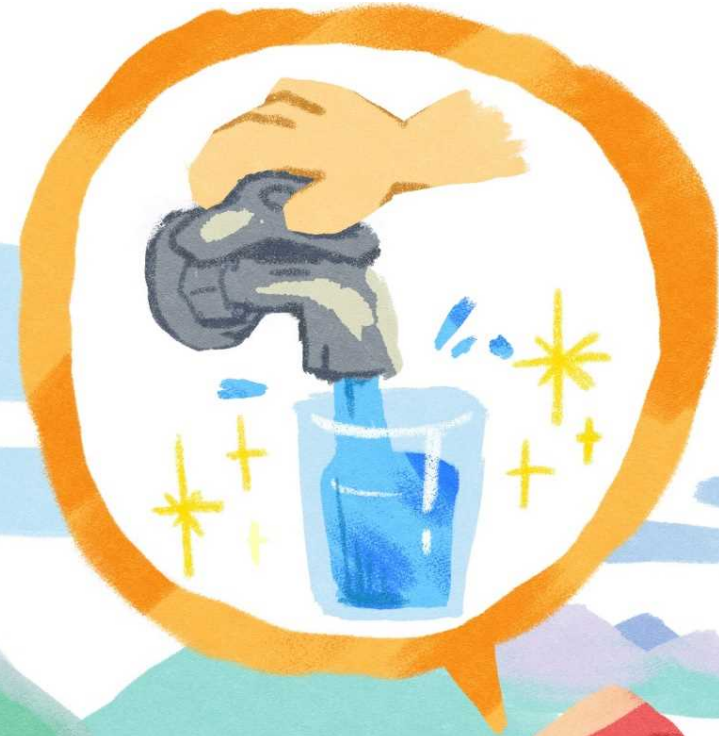
「このお水はね、もともと森に降った雨水なんだよ。」

「えええ！雨水なのこれ！？」

「森に降った雨が長い時間をかけて森の下を通っていくこと

で水がきれいになるし、おいしくなるんだよ。

おばあちゃんちの水は森を通ってきた地下水を使っているからおいしいんだよ」



ちかすい  
地下水

ユウちゃんはぜんぜんわかりません。

「どうして森を通ると水がおいしくなるの？なんで？」

「そうだね…

じぶん あまみず もり とお  
自分が雨水になって森を<sup>つ</sup>通って、  
いえ  
この家にたどり着くまでの  
ぼうけんごっこをしてみましようか。  
おも  
そしたらそのヒミツがわかんと思うよ。  
そうぞう  
想像してごらん」

じぶん あまみず  
「自分が雨水？おもしろそう！  
かん  
こんな感じかな？」



「ちがうちがう。<sup>あまみず</sup>雨水はおちてくるときに  
ちりとかで<sup>よご</sup>汚れるから<sup>ふく</sup>服はどろんこだよ。」

「えっ、えっー!？」

「まあまあ、そんなにおこらないで」



あまみず  
さあ、雨水になったユウちゃんのぼうけんの始まりです。  
はじ

あめ  
雨が降ってきました。

さいしょ  
最初にユウちゃんは雲から森に落ちていきます。  
くも もり お



もり お  
森に落ちると、

は うえ と  
葉っぱの上でいきおいよく飛びはねて

つち なか  
土の中にしみこみました。





ちちゅう

さあ、ここからは地中のたんけんです。ユウちゃんはあたりを見回しました。

みまわ

「あれ、土<sup>つち</sup>って砂<sup>すな</sup>のかたまりだと思<sup>おも</sup>ってたんだけど、

すきまがたくさんあるんだね。」

「そう、森<sup>もり</sup>の土<sup>つち</sup>は根<sup>ね</sup>っこが入<sup>はい</sup>りこんだり、

いろん<sup>い</sup>な生き物<sup>もの</sup>が住<sup>す</sup>んでいるおかげで、

すきまがたくさんあるの。」

z z z

した お

ユウちゃんはすきまをジャングルジムのようにつたいながらさらに下へと降りていきました。

Yahonashi

すこ お やす  
少し下りたところで、ユウちゃんは休むことにしました。

い  
おばあちゃんが言いました。

もり つち おおあめ ふ こうずい  
「森の土にすきまがあるおかげで、大雨が降ってもすぐに洪水になることはないの。」

みず もり みどり い  
すきまに水がたまるからね。だから森は緑のダムって言われてるんだよ。

じぶん ふく み  
そういえば、ユウちゃん、自分の服をよく見てごらん?」「えっ?」



Before まえ

YAHANASHI

あと  
After

「あれ、いつの間にか汚れが取れて、  
からだ  
体がキレイになってる?!」

とお  
「すきまを通り抜けていく間に  
あいだ

よご  
と  
汚れがだんだん取れていくんだよ。

もり みず  
森は水をキレイにもしてくれるのよ」



キレイになったユウちゃんは、

さらに地中の深いところまで来ました。

何かがキラキラと光っています。

「わあ！お星さまみたい。あの光ってるのは何？」

「ミネラルだね。これがほどよくとけていると

水がおいしくなるんだよ。あんたも持ってお帰り。」

ユウちゃんはミネラルのかけらをポケットにつめこみました。

ユウちゃんはずっと地中深くまで下りていきました。

すると、水が集まって流れているところに出ました。

「流れるプールだ！」

「地下水道に出たようだね。」

しばらく泳いでいたら、ばあちゃんちに帰れるよ。

流れに乗って帰ってきなさい。」

「はい」





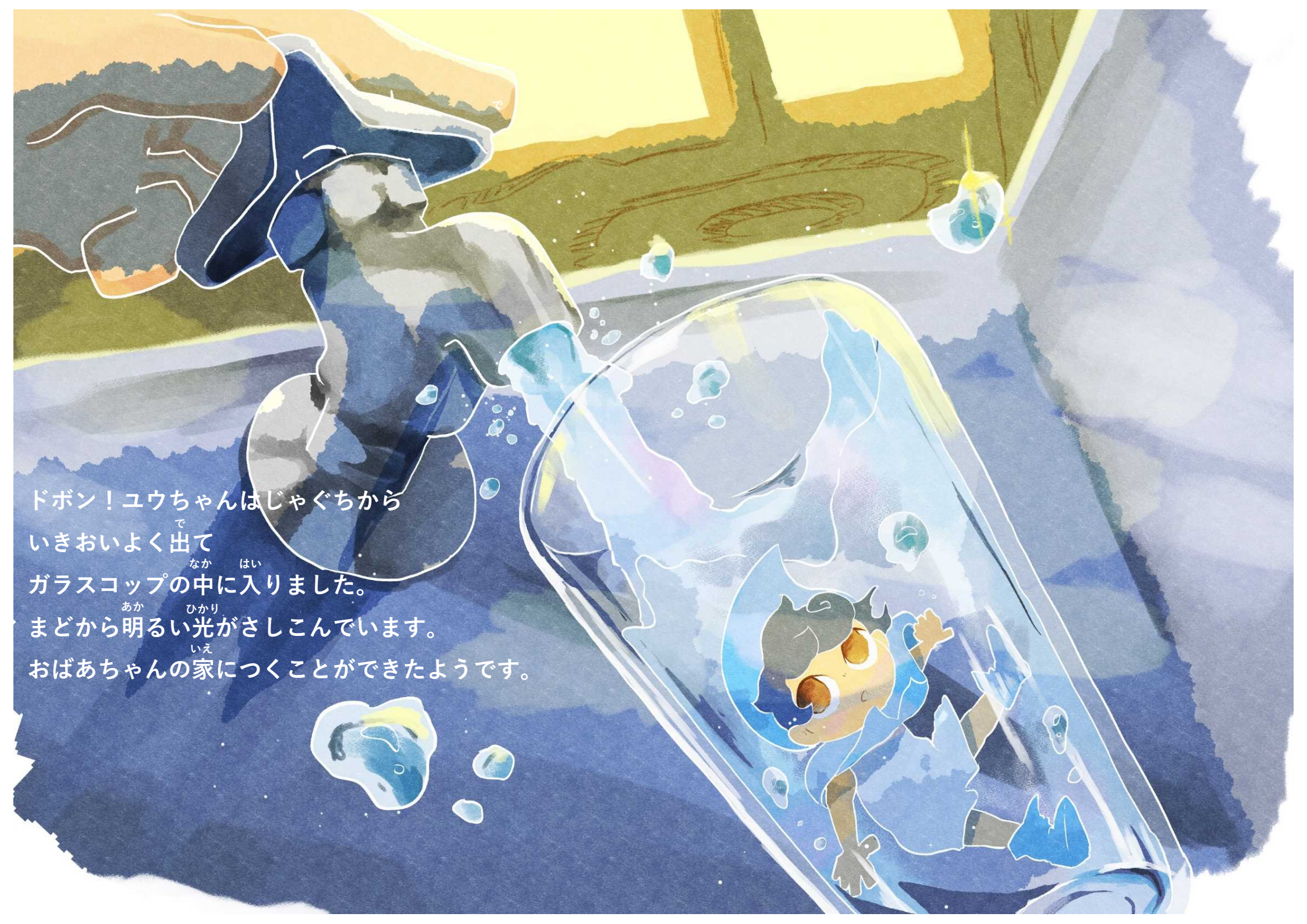
ユウちゃんは暗い<sup>くら</sup>地下水道<sup>ちかすいどう</sup>を流<sup>なが</sup>れていきます。

「ユウちゃん、森<sup>もり</sup>は水<sup>みず</sup>をためておいてくれて、きれいにしてくれて、  
さらにおいしくしてくれることわかったかい？」


「うん！森<sup>もり</sup>ってすごいね！」

ひかり み  
光が見えてきました。

ひかり ほう て の  
ユウちゃんは光のさす方へ手を伸ばしました。



ドボン！ユウちゃんはじゃぐちから  
いきおいよく出<sup>で</sup>  
ガラスコップの中に入りました。  
まどから明<sup>あか</sup>るい光<sup>ひかり</sup>がさしこんでいます。  
おばあちゃんの家につくことができたようです。



「おばあちゃん、<sup>あまみず</sup>雨水になってぼうけんするのめっちゃ<sup>たの</sup>楽しかったよ。

またのどかわいちゃった。<sup>みず</sup>お水ちょうだい。」

「はいはい、どうぞ」「ゴクッ」

<sup>みず</sup>お水はすっきりとおいしくてユウちゃんはにっこりしました。



# おあり

制作 林野庁 近畿中国森林管理局  
箕面森林ふれあい推進センター

作／絵 矢放 七海

